

令和元年度 社会福祉法人いいたて福社会事業報告書

1. 令和元年度 社会福祉法人いいたて福社会事業報告書
1～ 2ページ
2. 令和元年度 特別養護老人ホームいいたてホーム事業報告書
3～22ページ

ホーム事業報告書（全体）	3～ 6
各家生活報告書（6ユニット）	7～16
医務室事業報告書	17～19
厨房事業報告書	20～22
3. 令和元年度 いいたて在宅介護支援センター指定居宅介護支援事業所事業報告書
23～26ページ
4. 令和元年度 事務室事業報告書
27ページ
5. 令和元年度 研修報告
28～30ページ

令和元年度 社会福祉法人いいたて福社会事業報告書

1. 基本方針

人材不足等が財政や運営においても大きな影響をもたらしているものの、社会福祉事業（地域と共に快適に過ごせる場の提供・将来への安心感に繋がるサービス）を提供して行くため、法人役員として定期的な理事会及び評議員会、監事会を開催し様々な課題や問題を解決し、安定した基盤づくりに取り組んできた。

※1 人材確保に向け、「職員紹介者への奨励金制度」「新採用者支援手当」を創設。

※2 働き方改革に伴う諸規程等の整備

2. 事業内容

・理事会、評議員会、監事会、評議員選任・解任委員会の開催状況

理事会年6回、評議員会年1回、監事会年1回開催。

(1) 理事会の開催状況（理事定数6人、監事2人）

回数	開催日	出席（人）		内 容
		理事	監事	
第1回	令和元年 5月23日	6	2	報告第1号 平成30年度第5回理事会議事録の確認について 報告第2号 諸事業報告 議案第1号 平成30年度社会福祉法人いいたて福社会事業報告について 議案第2号 平成30年度社会福祉法人いいたて福社会一般会計収支決算について 議案第3号 社会福祉充実残額の算定結果について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福社会理事候補者の推薦について 議案第5号 社会福祉法人いいたて福社会監事候補者の推薦について 議案第6号 社会福祉法人いいたて福社会評議員の招集について 議案第7号 福祉サービスに関する苦情解決体制に関する第三者委員の選任について
第2回	6月12日	6	2	報告第1号 令和元年度第1回理事会議事録の確認について 報告第2号 特別養護老人ホームいいたてホーム施設長の辞任について 議案第1号 社会福祉法人いいたて福社会理事長の選任について 議案第2号 社会福祉法人いいたて福社会業務執行理事の選任について 議案第3号 福祉サービスに関する苦情解決体制に関する第三者委員の選任について 議案第4号 特別養護老人ホームいいたてホーム施設長の選任について
第3回	10月10日	6	1	報告第1号 令和元年度第2回理事会議事録の確認について 報告第2号 諸事業報告 議案第1号 令和元年度特別養護老人ホームいいたてホーム拠点区分会計補正予算について 議案第2号 社会福祉法人いいたて福社会就業規則の一部変更について 議案第3号 社会福祉法人いいたて福社会臨時雇用職員管理規則の一部変更について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福社会給与規則の一部変更について 議案第5号 社会福祉法人いいたて福社会評議員選任・解任委員会委員の選任について
第4回	10月30日	5	2	報告第1号 令和元年度第3回理事会議事録の確認について 議案第1号 いいたてホーム東棟南側濾過機及び送風機更新工事請負契約の締結について 議案第2号 いいたてホーム職員宿舍修繕工事請負契約の締結について 議案第3号 大型自動洗濯機・汚物除去機・乾燥機購入契約の締結について 議案第4号 介護保険対応コンピューター及びコンピューターソフト等物品購入契約の締結について 議案第5号 厨房特注適温カート購入契約の締結について

第5回	12月18日	4	2	報告第1号 令和元年度第4回理事会議事録の確認について 報告第2号 諸事業報告 議案第1号 社会福祉法人いいたて福祉会給与規則の一部変更について 議案第2号 社会福祉法人いいたて福祉会臨時雇用職員管理規則の一部変更について 議案第3号 職員紹介者への奨励金制度の創設について
第6回	3月30日	6	2	報告第1号 令和元年度第5回理事会議事録の確認について 報告第2号 諸事業報告 議案第1号 令和2年度社会福祉法人いいたて福祉会事業計画（案）について 議案第2号 令和2年度社会福祉法人いいたて福祉会一般会計収支予算（案）について 議案第3号 社会福祉法人いいたて福祉会臨時雇用職員管理規則の一部変更について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福祉会給与規則の一部変更について 議案第5号 特別養護老人ホームいいたてホーム設備機器保守点検委託契約について

(2) 評議員会の開催状況（定数7人）

回数	開催日	出席（人）		内 容
		評議員	監事	
定時	令和元年 6月12日	5	2	報告第1号 平成30年度定時評議員会議事録の確認について 議案第1号 平成30年度社会福祉法人いいたて福祉会事業報告について 議案第2号 平成30年度社会福祉法人いいたて福祉一般会計収支決算について 議案第3号 社会福祉充実残額の算定結果について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福祉会理事の選任について 議案第5号 社会福祉法人いいたて福祉会監事の選任について

(3) 監事会の開催状況（監事定数2人）

開催日	出席（人）	内 容
令和元年 5月15日	監事 2名	平成30年度社会福祉法人いいたて福祉会事業報告について 平成30年度社会福祉法人いいたて福祉一般会計収支決算について 平成30年度理事会及び評議員会の執行状況について
	講評	全体的に適正に処理されている旨の報告あり。

(4) 評議員選任・解任委員会の開催状況（定数3人）

開催日	出席（人）	内 容
なし		

・役員研修等

- 関係機関が主催する役員研修会に参加（令和元年度研修一覧のとおり）
- 県等主催の役員研修に参加（令和元年度研修一覧のとおり）

1. 基本方針

ご利用者の生活が家庭の延長と感じられる「居心地の良い」環境作りのため、必要とされているケアを、必要な時に提供できるよう、ニーズを発掘し、意識を高められるよう努めてきました。そのために、日々のケアが「自己決定」できることを基本に、多職種間との連携を図り、諦めないケアを展開してきました。

また、重度化していく方の尊厳が保持されると共に、関わりの時間を大切に「ホームの家族」のスタイルを崩さず、ご家族と共に暮らしを支えてきましたが、年末にインフルエンザ感染予防や年度末の新型コロナウイルス感染拡大防止のため、家族等の面会を制限せざるを得ない状況になりました。

今年度（4月～11月）のご家族等の面会者は延べ552名。面会回数が多かった方で51回でした。週1回程度のペースで面会出来ていたのが、面会制限でご家族等との時間が無くなり残念な思いです。そんな折、テレビ電話で面会を楽しまれたご家族もあり、微笑ましくも家族の大切さを知らされたひと時でした。

2. 重点目標

（1）暮らしに寄り添う

① 生活の場について

居心地が良いと感じられる環境に努めてきました。

（外出できない環境の中で、普段とは違った雰囲気的环境をつくり、気分転換やメンタル面のケアが出来るよう四季の行事やレク活動等を充実させてきました。）

② 社会との繋がり

- ・ 外出支援は、買い物や外食、桜の花見と紅葉の時期にドライブ等を実施し、交流や社会との繋がりを継続していけるよう努めてきました。
- ・ 今年度は、村内の小学校や認定こども園との交流を持つ機会が少なくなりました。これは、日程の調整ができなかったためであり、次年度は、事前に計画を立て、交流の機会を増やして行きたいと思えます。

③ 認知症・重度化のケア

- ・ 年々高齢化と認知症状が重度化していく方の症状進行防止のため、家庭的な雰囲気の中で、食事づくりをする機会や懐かしい歌を聴いたり歌ったりすることで、機能低下防止を図ってきました。また、ケアでは、言動に寄り添い、理解を深め、尊厳の意識を高めました。
- ・ ケア統一と継続が図れるよう「ケアシート」を活用し、他職種間との情報共有に努めてきました。

（2）職員一人ひとりの意識を高めていく

- ・ 介護・医療・栄養の連携を密に専門ケアを行えるようにしてきました。
（職員一人ひとりが情報を共有し、意見交換することで知識を深めることができました。）
- ・ 「24Hシート」を整備、実際に活用できるものとし、介護職員がユニットの配置替えになっても同じケアを提供できるよう努めてきました。

(3) 自立支援（ミニデイの開催）

自立支援を目的に月2回、施設内でデイサービスを開催。普段の生活にメリハリを持って頂き、他ユニットとの交流がもてました。また、在宅で行ってきた作業の継続と達成感が持てるよう、昼食を自分達で調理することを勧めることで、生き生きとしていました。

3. 具体的な施策

(1) 各委員会

ア. 食事、口腔ケア委員会

食事と口腔ケアについて、食事を美味しく目で楽しめ、安全に食べて頂けるよう取り組んできました。特に、毎月の行事食では厨房職員が中心となり、少しでも楽しんで頂けるようメニューと食事形態を検討してきました。

口腔ケア担当では、口腔内の衛生は勿論、食事を美味しく食べて頂くためのケアを目標に、用具の選定や統一したケアができるよう、常に見直してきました。また、食前体操は、昼食前の時間に行ってきました。

イ. 入浴・行事委員会

普段の入浴から、季節感を味わって頂けるよう「菖蒲湯」や「ゆず湯」等を提供してきました。また、「お風呂の日」を設定、大浴場を利用することで、個浴の利用者が銭湯気分分で他の利用者と交流が持てるよう工夫してきました。

ウ. 排泄・褥瘡防止対策委員会

排泄用品の選定からスキンケア、ベッド上で休んでいる方のポジショニング、車いすのクッションの使用について勉強会を開催し取り組んできました。

また、普段行っている排泄交換を見直しすることで、個々に合った排泄が快適にできるようになりました。

エ. ケアプラン・ユニット委員会

ケアマネジメント、サービス計画等を学び、各家でのケア会議等が充実できるよう取り組んできました。24Hシートとアセスメントシートを一緒にすることで、継続性が分かり、また、生活様子表にもケアチェックをすることで、ケアの統一が図れました。

ユニット班では、今までのユニットマニュアルの見直しや現場でできる具体的な内容としました。

オ. リスクマネジメント委員会

アクシデント発生時には、速やかに問題回避ができるようケア会議を行い、繰り返さない取り組みをしてきました。委員会開催時には、アクシデント内容を分析し、改善方法等を職員会議において周知してきました。

カ. 環境委員会

家長が兼務し、施設内の環境整備に努めました。ワックス掛けでは、職員の勤務に合わせ全館を行うことができました。車いすの洗浄やベッド周囲の清掃については、各家で計画的に行えるよう声掛けをしてきました。

キ. 身体拘束・虐待防止委員会

施設内での身体拘束や虐待が行われていないかを定期的を確認し、安心してケアが受けられる生活環境を提供してきました。

今年度、虐待は勿論、身体拘束はありませんでした。

(2) 会議の充実

① 家長会議の充実

毎月 1 回開催、タイムリーに職場環境や各家での問題点について話し合われてきました。

開催月日	項目	内容
H31.4.17	① 年間目標と計画について ② 勤務体制について	① 各家の取り組みについて目標を持ち計画 ② 前日遅番、翌日早番の勤務体制で利用者の把握ができる
R1.7.1	① 行事について ② 業務の見直し	① 夏まつりについて（8月3日開催） ② 日勤と遅番の勤務時間について
8.29	① 応援職員 ② 行事について ③ 業務の見直し	① 7月～3ヶ月 10月～6ヶ月の期間 ② 敬老会（9月15日開催） ③ PHSの所持と対応について
10.23	① 行事について ② 施設の環境整備	① 芋煮会・ミニ運動会（11月3日開催） ② ワックス掛け（11月3日 午後から）
11.22	① 行事について ② 利用者の入居について ③ 介護マニュアルについて	① クリスマス会（12月22日開催） ② 増やせる体制づくり ③ 個別ケア（ユニットケア）等マニュアル見直し
R2.1.21	① 福祉会の現状について ② 百歳賀寿祝いについて ③ 3月の監査について	① 現況及び給与規程一部変更の説明 ② 式典について（M. Nさん） ③ 監査内容の確認
2.27	① 就業規則について ② 感染症拡大防止について ③ 行事について	① 就業規則等及び諸規程の一部変更の説明 ② 新型コロナウイルス感染拡大防止について（面会制限等） ③ ひなまつり会（3月1日開催）
3.23	① 人事異動等について ② 業務の見直し ③ 合同誕生会	① 退職者、昇格者内示 ② 早①の勤務体制について ③ 3月誕生者の合同誕生会（3月27日開催）

② 職員会議

毎月最終木曜日に、勤務者以外の全職員が情報共有のため、多職種間や各家の現況報告と委員会の取り組みについて報告してきました。

また、職員のレベルアップのため、職員の研修報告の場を設け、研修のフィードバックが出来るようにしてきました。

③ 家内会議

毎月 1 回、各家で取り組みを話し合い、統一したケア方針を持てるように開催。

また、共通した情報を得、協力・信頼・刺激し合うことで、職員一人ひとりのレベルアップとコミュニケーションの場として充実させてきました。

(3) 年間行事

主な行事関係等

月日	主 な 内 容	
4.18	花見ドライブ	真野ダム～涼ヶ岡八幡宮(相馬)～松川浦～セテッセかしま(昼食)と暖かい春を満喫してきました。(9名参加)
4.20	家族会総会 花見昼食会	30名の家族の出席があり、総会后、各家で利用者・ご家族・職員が交流。また、厨房手作りの花見弁当で和やかに過ごしました。(各家 全員参加)
5.30	柏餅づくり	季節感を味わって頂くため、ご利用者と一緒に柏餅づくりをしました。餡を丸めながら、ちよつとつまみ食いする笑顔は、周囲の方々を微笑みにかえていました。(西棟ホール：ご利用者14名)
6.26	百歳賀寿祝い	高橋嘉子さん百歳賀寿祝いをを行い、ご家族の方が大勢出席されました。県から表彰を受け、ホームからは厨房手作りの誕生日ケーキ(フルーツケーキ)と好きな本が贈られました。職員からは大黒舞と花笠音頭の披露でお祝いを盛り上げました。(西棟ホール 全員参加)
7.7	七夕昼食会	西棟ホールで恒例の七夕昼食会を行いました。寿司桶にそうめんを入れ色とりどりのトッピングをすることで、涼しげに食べられていました。(西棟ホール 全員参加)
8.3	夏祭り	昨年度より、ホーム夏祭りを屋外で行いました。真夏の暑さが心配であり、体力のないご利用者に気遣いながら、全員浴衣や甚平に着替え、模擬店や盆踊り、花火を楽しみました。(前庭：全員参加)
9.15	ホーム敬老会	西棟ホールで敬老会を行う。百歳以上のご利用者4名の表彰を行い、梁川町から踊りのボランティアで盛り上げて頂きました。また職員より、大黒舞と男性職員の歌の披露がありました。昼食は、厨房より手作りのお祝い弁当を美味しく頂きました。(西棟ホール：全員参加)
9.19	陶芸教室	ミニデイ参加者が、自分のカップを作る陶芸体験を行いました。粘土からカップに成型するのは難しかったようですが、職員や陶芸教室のスタッフに助けられ自分なりのカップができたようです。(参加者：ご利用者 10名)
10.2	お風呂の日	普段個浴を利用している方を対象に、ホームの西棟大浴槽を開放し銭湯気分を味わって頂きました。複数での入浴を楽しみ会話を弾んでいました。(参加者：12名)
11.3	ホーム芋煮会・ミニ運動会	例年同様、東棟大ホールにて、ミニ運動会と芋煮会を開催。ミニ運動会は、玉入れや、パン食い競争を行い、昨年より笑いあり、動きがありとても楽しそうでした。芋煮会ではご家族の方と職員が共同で行い、たくさんの料理を作って頂きました。運動後の食事とあって、ご利用者・ご家族・職員の会話が弾みとても良い交流がもてました。(参加者：全員)
12.22	クリスマス会	今年のクリスマス会は、利用者も職員も楽しめる催しにしました。利用者のハンドベル、職員のダンス、職員・利用者が一緒にマジックを披露して盛り上がりました。昼食には厨房より鶏の丸焼きが出て、皆さん驚きながらも美味しく食べていました。また、今年も日赤奉仕団より、手作りケーキのプレゼントがあり、美味しく頂きました。(西棟ホール 全員参加)
12.27	餅つき	年末恒例の餅つき。7升のもち米を3回に分けて餅つきを行いました。利用者も干本杵で餅をついたり、ジュウネンを擦ったりしました。つきあがった餅は、お供え用と昼食のあんこ餅や汁餅等で、皆一緒に美味しく頂きました。(西棟ホール 全員参加)
1.6	新年会	初顔合わせと挨拶を兼ね新年会を催しました。職員の余興(二人羽織、安木節等)で、初笑いや、昼食には、厨房手作りの祝い膳を堪能しました。(西棟ホール 全員参加)
1.14	団子さし	季節感を味わって頂くため、小正月に団子刺しを行いました。慣れた手つきで団子を丸め、ミズキに、色とりどりの団子の花を咲かせました。(西棟ホール 15名参加)
1.23	百歳賀寿祝	ぬくもりの家の方の百歳賀寿祝いをを行いました。ご家族も6人の出席があり、涙ぐむ姿もありましたが、皆でお祝いすることができました。(西棟ホール 20名)
2.3	豆まき	利用者で年男年女は一人しかおらず、職員も一緒に、各ユニットを回りながら豆まきをしました。鬼に向かって豆をぶつける等賑やかにを行いました。昼食には、厨房からの恵方巻を皆でかぶりつきました。(全員参加)
3.1	ひなまつり会	ひな祭り会を兼ねて食事会をしました。利用者一人ひとりが着物を着て記念撮影をしました。昼食には厨房職員が利用者の目の前で寿司を握り、嬉しそうに召し上がっていました。(西棟ホール 全員参加)
3.27	合同誕生会	今までご家族と一緒に誕生会や行事を行っていましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止により面会制限となったため、3月誕生者の合同誕生会を厨房からの大きなケーキでお祝いをしました。昼食には、利用者のリクエストの食事が提供され、楽しいひと時を過ごしました。(西棟・北棟ホール 全員参加)
毎週日曜日/毎週木曜日	手作りおやつで喫茶タイム/音楽療法	
月2回	ミニデイ	
月1回(月末)	避難訓練を実施	

1. 家目標と基本方針について

今年度の家目標は、「自発性を活かし、笑顔で穏やかに過ごして頂く。また、ご家族とのコミュニケーションを密に図る」を掲げ生活を送って来ました。

① 高齢に伴い、重度化している中でも、自立されている方もおり、身体的、精神的な面や、声掛けや関わり方も個々に合わせたケアが必要とされています。時折、ご利用者同士のトラブルも発生するなど、日々難しい対応に迫られる時もありましたが、多職種間との協力を得、過ごすことが出来ました。

その中でも、2月3日に104歳、3月21日に102歳の誕生日を迎えられた方がおり、職員の誇りに思え励みにもなりました。

② 朝のラジオ体操から始まり、レクリエーション、食前体操（昼）と、心身の機能維持に努めてきました。また、ラジオ体操では、手を動かせる方が多いので極力一緒に行うようにしてきました。

③ ベッド上での生活が多くなる方に対しては、離床シフロアで皆さんと一緒に過ごし、見守りをしながら孤独にならない環境作りに配慮してきました。

④ 下肢の血行不良や浮腫みのある方に対しては、メドマー等を施行したり、保温性のある靴にするなど状態悪化防止に努めました。

⑤ 新しく4月に入居された方については、家庭の延長で過ごして頂ける環境作りとして、愛用されていた茶道具を自宅より持参して頂き、自身でいつでも気兼ねなく飲めるようテーブルを配置することで不安の軽減に繋がりました。また、料理の下準備や炒め作業、洗濯物たたみと配膳等の役割を持つことで、生き甲斐にも繋がったのではないかと思います。

⑥ 9月に入居された方についても、ご主人からの情報を基に、その方の生活スタイルを大事に考え、部屋とは別にセミパブリックスペースを設けることで、落ち着いて過ごされるようになりました。また、歩行が出来る方なので、歩行訓練を日常に取り組み下肢機能の維持に努めました。

⑦ 月1回のミニデイでは、6名の方が参加され、食事作りや作品作りを楽しまれ、機能維持や食欲増進、遣り甲斐に繋がりが良かったと思います。今後も充実した生活が送れるよう工夫していきたいと思えます。

⑧ ホーム全体の年間行事（外食ドライブ、七夕会、夏祭り、敬老会、ミニ運動会&芋煮会、クリスマス会、餅つき会、新年会、団子さし、節分（豆まき）、ひな祭り、ミニデイ）に参加されました。その都度、皆様の笑顔を沢山見る事ができ、職員の遣り甲斐にもなっています。

2. 生活全般について

1) 食事について

① 目の前で配膳し食欲増進に努めました。また、少しでも多く栄養のある物を食べて頂きたく、個々の状態に合わせ、食事形態と嗜好を踏まえながら代替え食を提供したり、体調管理にも努めてきました。

② 食前体操は元より、義歯に不具合のある方に対しては、通院しメンテナンスする事で、口

から美味しく食べられるようになりました。

- ③ 食事と経管栄養の併用の方に対しては、看護師や栄養士と情報を共有し、本人が負担とならず生活が送れるように対処しながら体調管理に努めました。
- ④ 水分不足と思われる方に対しては、ほうじ茶寒天を作り、毎食前食べて頂くことで体調も落ち着かれています。

2) 排泄について

- ① トイレで排泄している方の尿臭軽減を図るために、陰部洗浄を細やかに行ったり、また、排泄後は必ず除菌剤を使用する等、尿臭対策にも力を入れてきました。
- ② 個々の尿量に合った排泄パットを随時見直してきました。
- ③ 排泄交換時は洗浄と個々に合わせた軟膏を塗布し皮膚の保護に努めてきました。
- ④ 新規入居者に於いては、排便コントロールが難しく、看護師と連携し、食物繊維や下剤の調整を行う等、状態のコントロールに努めてきました。

3) 入浴について

- ① 高齢化・重度化に伴い皮膚も弱くなり、皮膚と衣服の摩擦等により内出血が見られることもあり、その都度、家内で周知し安全で快適な入浴が出来るよう、その時の状態に合わせて個浴から特浴に変更する工夫をしてきました。
- ② 入浴を拒否する方もおり、入浴時間を変更したところ、以前のような強い拒否がなくなり、湯上りに「気持ちよかった」という声が聞かれるようになりました。
- ③ スキンケア対策として、個々に合った入浴剤やボディーソープ、ローション、ワセリン等を用い肌に潤いを保つようにしてきました。

3. 家内の取り組みについて

- ① 我が家の畑に野菜を植え、収穫をする楽しさと、一緒に調理する楽しみ、美味しく食べて頂けたと思います。
- ② 6月に外食ドライブで飯舘の道の駅に出かけました。昼食を自分で注文し、大きな丼物を平らげるなど気分転換になったようでした。
- ③ 自分らしく気兼ねなく過ごせる雰囲気作りをするために、一人ひとりの行動や性格を共有し、温かく見守る努力をしてきました。時には過剰なケアになった時もあり、今後の課題でもあります。
- ④ 104歳の方が趣味とする縫物を継続出来るような環境作りを心掛けてきました。特に、制作したリースを村文化祭に出展しました。このことが遣り甲斐に繋がったようです。
- ⑤ 誕生会では、少しでもご家族との時間を大切に頂きたく、ご家族の協力を得て、今年度は2名の方が自宅でお祝いするができました。今後も、体力的に外出が可能な方につきましては、大切な時間をご家族の方と一緒に過ごせるよう働きかけて行きたいと思います。
- ⑥ 家会議では、意見を出し合い色々な視点から最善のケアを模索し、試行錯誤しながらケアに繋げて来てきました。統一したケアに欠けた時もあったので、今後は、出来るようにして行きたいと思います。

※ 今後も年々高齢化、重度化が進みますが、家職員、多職種間との連携の下、体調管理と安心して和やかに過ごして頂けるような環境作りに努めて行きたいと思います。

1. 家目標と基本方針について

- (1) 生活形態を把握することで一人ひとりの生活を大切にしてきました。また、居心地の良い居場所作りを目指し、ケアの充実を図ることに努めてきました。
- (2) 終末期ケアについては、日々の身体の状態が大きく変わることが多く、申し送りを細やかに行うことで、統一したケアを提供することが出来ました。
- (3) 具体的な計画に掲げた“常に笑顔を忘れずにケアにあたる”については、難しさを痛感する場面が多くありました。
- (4) 面会が多かったこともあり、ご家族の皆さんとコミュニケーションを図ることができ良い関係づくりが出来ました。

2. 生活全般について

(1) 食事について

日々のケアの中の気付きが大切であり、“こんな風にしたら美味しく食べてもらえるのではないか”と云う意見を出し合ってきたことから、喜んで頂ける食事が提供できたのではないかと思います。また、食事内容についても看護師や栄養士と話し合い、状態に合わせた食事を提供できたと思います。

(2) 排泄について

個々の時間帯や季節によって尿量に違いもあるため、毎日、排泄チェック表を活用しながら排尿量に合わせたパットの見直しを行ってきました。こうすることで尿漏れ等を軽減することが出来ました。今後の課題としては、尿臭が強い方の尿臭軽減等に取り組んでいきたいと思っています。

(3) 入浴について

一人ひとりの身体状況に合った入浴形態の見直しを行い、安全に入浴できるケアに取り組んでいきたいと思っています。

3. 家内の取り組みについて

- (1) ユニットの取り組みとして、終末期を迎えた方に対するケアの内容について、多くのことを学び、考える機会も頂いた1年のような気がします。
- (2) レクリエーションに関しては、今後、居室などで休まれている方も多かったことから、体を動かすレク以外の外気浴や散歩などを多く取り入れたレク活動をしたいと考えています。

1. 家目標と基本方針について

- (1) 穏やかに安心して楽しく生活できるようにし、寄り添うケアと精神面のケアを重視し、不安等の緩和に繋げてきました。
- (2) ベッドで休んでいる方のケアとして、一日一回の離床に心掛けると共に、無理のないレクや行事に参加できるようにしてきました。
- (3) 笑顔で過ごせるよう、個々が必要としているものをしっかりと把握しながら安心して過ごせる生活の環境づくりに努め、暖かい日には庭で昼食会を行う等の工夫をしてきました。
- (4) 高齢に伴う、日々の体調の変化を見逃さず、個々の身体状況に応じたケアを提供できるよう、職員間で意見交換や情報の共有を行い、その人らしい生活が送れるよう支援してきました。
- (5) 心身共に寄り添うケアでは、今、何をして欲しいのか、何を訴えているのかを、業務やケアが優先になってしまい対応が遅れる事もあった。

2. 生活全般について

(1) 食事について

- ① ユニット内での味噌汁作りは、一緒に材料を切る所から始め、フロア内に香りが漂い、「まだ出来ないかな～」と待っている様子が見られました。
- ② 体重増加や体調等に合わせ、随時、食事量や形態等の見直しを行い、多職種間と協力しながら食事を提共することが出来ました。
- ③ 経管栄養の方もコミュニケーションを図るため、昼食の時間等にテーブルを囲み会話を楽しみました。

(2) 排泄について

- ① 尿臭対策に努めると共に、今後も試行錯誤しながら消臭の原因を確認し、対策に努めて行きたいと思います。
- ② 尿量に合ったパットの選定や、見直しをすることで皮膚のトラブルを防げた。
- ③ 職員間の会話の中で、言葉遣いやプライバシーの配慮に欠けていた事があり、今後はそのようなことがないように十分に気を付けて行きたい。
- ④ トイレ介助や排泄交換は、個々の体調等に合わせ2人対応が増えてきましたが、夜勤者等の協力により安全に行うことが出来ました。

(3) 入浴について

- ① 気持ちよく満足して入浴して頂けるよう、身体状況を把握することで、安心して入浴することが出来たと思います。
- ② 入浴剤やローション使用で皮膚の保護に努めることができたと思います。
- ③ 特浴の利用者が増え、安全に入浴を実施するため、シャワーチェア上での体勢作りや内出血防止のための保護用具の工夫等、対策に努めてきました。
- ④ 最期まで入浴して頂きたいとの職員の想いから、他のユニットや看護師の協力のもと、体調を見ながらゆっくり入浴することが出来ました。
- ⑤ 「お風呂の日」では(ゆず・りんご・よもぎ)等を入れた浴槽で、ゆったりと入浴して頂き、季節感も味わって頂くことが出来ました。

3. 家内の取り組みについて

- (1) 職員の異動があっても、お互い様の気持ちで協力し合い、良い雰囲気の中で取り組むことが出来ました。
- (2) 野菜を育て、育った野菜を家で調理し、一緒に美味しく頂きました。
- (3) パタカラ体操に力を入れ、普段歌わない方も歌うことが出来ました。
- (4) 経管栄養の方も増え、ベッドでの移動も多くなっていますが、どのようにしたら満足して頂けるのか、何度もケアの見直しや心情を汲み取ることで、少しはケアに活かせたのかなと思います。
- (5) 白寿のお祝いを自宅で出来たことは、本人としても私達にとっても嬉しい出来事でした。
- (6) ミニデイでは普段レク等には参加しない方も参加し、いつもとは違う雰囲気ですべてと過ごせることは良かったと思います。
- (7) 室内で過ごすことが多くても、四季の花々を飾ることで季節感を感じとり「きれいだな～」との言葉や笑顔が見ることが出来ました。
- (8) 意思表示が困難な方に、少しでも発声して頂こうと声掛けを重視すると、アイコンタクトで応えてくれたり、「はあ～」と発声してくれたり、努力の甲斐があったと思いました。
- (9) 居室で過ごす方には、出来る限り話相手になったり、音楽を聴いて頂いたり、テレビ等を観て頂く等、孤独感のないように努めることが出来たと思います。
- (10) ターミナルケアでは、皮膚の状態の悪化や拘縮等で日々変化する事に対し、毎日、試行錯誤でした。突然の体調不良などで入院し、最期にホームで看取ることが出来なかったことがあり残念なこともありました。なによりも、家族から感謝の言葉を頂いた時は、感無量で頑張っただけで良かったと思う反面、自分達のケアは何処まで出来たのかと考えさせられることもありました。

1. 家目標と基本方針について

- (1) 「自分らしい生活」が送れるようお手伝いをする。その方にとっての自分らしさとは何かを考え、1から10までお手伝いをするのではなく、時間がかかっても出来る事は自分で頂く事については、大きく構えて待つと云った行動が出来ず、時計の針を見つめ手を差し伸べてしまう事があり、今後の課題として考えて行きたいです。
- (2) 利用者の保有能力が維持出来るよう介護用品を活用し、出来る事は自分で行って頂くよう支援に努めたが上手く波に乗れなかった面もありました。
- (3) ケアの提供をすることにあたり、利用者、介護職員共に負担のないよう、職員間でアイデアを持ち寄り、個々に合った生活スタイルを尊重することが出来たのではないかと思います。
- (4) 24Hシートを活用し一人ひとりに合った生活スタイルを大事にしてきました。
- (5) 申し送りノートだけでなく、その日の勤務者同士が話し合い、次に引き継ぐ事が出来たのではないかと思います。業務優先的な場面も時に見られ今後の課題でもあります。
- (6) 家族の面会時には介護職員側から積極的に話しかけ情報収集に努めた。
- (7) 個々に合ったコミュニケーションを自分なりに考え、沢山の笑顔が見られたことが介護職員側にとってとても嬉しい一年だったと思います。

2. 生活全般について

(1) 食事について

- ① メニューに合わせて食器の選択や盛り付けに工夫。利用者の前での配膳にも心掛けてきた。
- ② 咀嚼、嚥下状態を把握し、体調変化に伴い食事形態の見直し等、随時、検討し提供する事ができた反面、介護職側と厨房側での意見の相違がみられたこともあった。次年度は、委員担当等で、栄養学を学べる時間を設けても良いのではないかと思います。
- ③ 家料理の機会を設ける事が出来ませんでした。次年度は、改めて計画を立てて行きたいと思います。
- ④ 誤嚥や口臭対策として個々に合った口腔ケアを行い、レクや昼食前のパタカラ体操を毎日行うなど予防策に努めてきました。
- ⑤ 食事摂取量に応じ、補助食品の追加や食欲を促すため個別にメニューを変え、個々に合った形態を提供する事で食欲増進に繋げる事ができました。

(2) 排泄について

- ① 排泄チェック表を活用し、個々の排泄時間、尿量や尿臭対策に合ったパットの選定など、負担の少ないケアが行えました。
- ② 羞恥心に配慮し、異性でも信頼関係を築けるよう努力してきました。
- ③ トイレの環境を整え、快適に済ませられるよう下剤の調整や、2人対応での移動介助。介護職側が“何でも来い、”と云った大きな気持ちで今後も対応にあたっていきたいと思います。

(3) 入浴について

- ① 職員の負担軽減のため介護用具の有効活用や、他の家の協力のもと、個々の体調に合わせた入浴スタイルで行い、安全・安楽に楽しい時間を過ごして頂けたことと思います。
- ② 羞恥心に配慮した声かけや、マイバスタオルの活用など、自分だったらどのようにして欲

しいかを考えながら対応してきました。

- ③ やってあげたいと云う気持ちで行った行動が、逆に内出血等に繋がってしまった事があり個々を知る事の難しさを感じました。

(4) 生活について

- ① 少しの変化も見逃さないようにするにはその方を知る。ちょっとした手間でもその人のために時間を作る過程が大切なのではと思います。
- ② 朝のラジオ体操は、一人ひとりの生活スタイルを考慮すると、実行することが難しいこともあり行う事が出来なかった。
- ③ ドライブや買い物など、遠出の機会を設ける事があまり出来なかった。
- ④ 利用者から「どれやるから持ってこい」と言われ、新聞たみに集中力を高め取り組む姿勢は見習いたいところがありました。
- ⑤ 自分の言った事を否定されると、それに対して声がどんどん大きくなるため、相手の目線に立ち穏やかな気持ちで今後も対応していきたいと思います。
- ⑥ センサーマットの否かについては家会議で毎月話し合い検討を行ってきました。
- ⑦ 終末期に於いては、ある家族が「こんな簡単に逝ってしまうんだ」との言葉がありました。そんなに簡単に逝ったわけではないのですが、家族に看取られ生涯を閉じる事が出来たことは幸いです。
- ⑧ 職員同士互いを尊重し気軽に話し合うことが出来たように思います。また、委員会のあり方については、委員の方が手本となる動きが見られ、とても良かったのではと感じました。

3. 家内の取り組みについて

- (1) 働き方改革により、今までの業務を見直し、限られた時間で質の良いケアを提供できるようホーム、ユニット内で考え取り組んできました。

最初は不安や心配もありましたが、徐々に効率の良い仕事を意識するようになり、利用者についてのケアの方法やコミュニケーションのあり方など、これまで以上に考えるようになりました。

- (2) 新しい事を取り入れながら、いいたてホームらしいユニットケアが出来るよう、これからもステップアップの努力をしていきたいと思っています。

1. 家目標と基本方針について

- (1) 「日々の生活の中でちょっとした変化や本人の思いを感じとり、その人らしく生き生きと笑顔で過ごして頂けるようなケアを行っていくよう心がける」を目標として、1年間生活を共にしてきましたが、ケアを統一する難しさを感じさせられる1年でもありました。
また、働き方改革により時間に追われるような毎日になっていたようにも感じました。その中でも、何が1番ベストなのかを考えてケアにあたる事ができていたと思います。
- (2) ベッド上で長い時間過ごされる方もおり、1日1回は離床レクリエーションへの参加や、音楽を聴いたり、話をしたりとメリハリのある生活を送って頂きました。その時の笑顔は今も忘れることができないくらい嬉しく感じました。
- (3) 体調を崩される方もいましたが、無理強いすることなく、個々に合ったケアの方法で過ごして頂いたり、また、個性豊かな方も多く、毎日、笑いの絶えない日々を過ごすことができ、昨年よりも明るく楽しいユニットでした。
- (4) 2月に1人の方を見送りました。最期までその方らしく生活して頂けるように、職員が一丸となりケアに取り組んできました。
- (5) 2月に入居した方は、とても話好きで歌や踊りも上手、更に、ユニット内の雰囲気も良くなり利用者同士の会話も増え、安心して楽しく過ごして頂いていると思います。今後も、一人ひとりに寄り添い、個性を尊重しながらその方らしく、生き生きと生活して頂けるようケアに努めたいと思います。

2. 生活全般について

(1) 食事について

- ① 個々の状態に合わせた食事形態・量で提供できるよう、看護師・栄養士・ユニット内でも話し合い、随時、見直しを行ってきました。「美味しく食べて頂けるにはどうしたらよいのか」「何なら食べられるのか」を考えながら、目の前で配膳を行ったり、食欲が沸くような盛り付けをしたり、声かけを工夫することで食事の時間を楽しく笑顔で過ごせたことと思います。また、残食も少なく皆さん美味しそうに召し上がり元気なことからも、改めて口から食べると云うことの大切さを実感することができました。
- ② 食膳体操「パタカラ体操」「あいうべ～体操」をしっかりと行うことで、唾液分泌、口腔機能の維持・向上に努め、むせり・誤嚥予防にもなり、また、経口摂取を維持することができました。毎日継続して行うことで音楽が流れると自然に大きな声を出されている方もおり継続することの大切さを知ることもできました。
- ③ 体調変化があった時も、早急に状態把握、申し送りを徹底することで、対応ができたと思います。

(2) 排泄について

- ① 個々に合った排泄パターンを把握し、交換時間やパットの選定を行い、変化があった時には見直しを行うことで快適に過ごして頂きました。
皮膚トラブルも少なく、尿臭もきつくなる前に、排泄時間の把握や交換回数、パットの見直しを行うと共に、申し送りを徹底、統一した対応をすることで軽減することができました。

② 排便コントロールも一人ひとりにあった間隔や対応方法でスムーズにできました。

普段ベッド上での交換の方もトイレに座り排泄することで、すっきりした表情が見られ、トイレでの排泄の大切さを再確認できました。今後も負担の少ない、個々に合った方法、無理のない範囲で行っていきたいと思います。

③ 介助中の言葉遣いに注意し、プライバシー保護に配慮しながら行うことができていました。

(3) 入浴について

① 個々に合った入浴方法を話し合い、他ユニットの協力のもと、安全・安心・安楽に入浴して頂けたと思います。入浴後には「気持ち良かった。良い湯だなあ～」と言われる方もいました。今後も望んでいる入浴を提供できるよう心掛けていきたいです。

② 個々の皮膚状態に合わせ入浴剤や保湿クリームを使用、機械浴で入浴される方にはシャワーチェアにもクッションを使用し、皮膚トラブルが起きないように統一したケアで対応することができました。

③ 入浴中に音楽を聴きながら一緒に歌い、季節のお風呂を楽しみ気分よく楽しい入浴時間を過ごして頂けたことと思います。

職員も時間に追われることなく余裕を持っての介助に心掛けており、会話も自然にでき、個々に沿った入浴の対応ができていました。

(4) 生活について

① ティータイムでも職員と一緒にの場所で過ごせるようテーブルの配置替えをすることで、職員も会話が増え、ゆったりした時間を過ごすことができました。

② ベッド上で過ごされたり、離床時間の短い方もいることから、個々に合わせた声かけや、コミュニケーションに心掛け、職員一人ひとりが日々の目標を持って支援するよう工夫できていたと思います。

3. 家内の取り組みについて

① 体力がなくすぐに疲れてしまうことが多い中、体調が良い方や、普段ベッドで過ごされている方も出来るだけレクリエーションに参加して頂きました。参加された方は、終始笑顔で楽しまれ表情も良く元気にしていました。笑顔で楽しまれている姿を見ると、お互いに自然と笑顔になり「良かった」と思う瞬間です。

② 個々の生活パターン、リズムを把握し一人ひとりにとって最適なケアは何かを考え、話し合いをすることで信頼関係も築け、家族のように過ごすことができました。時間に追われるのではなく、余裕を持って対応することで落ち着き、安心して過ごせるのだと感じました。

③ 個々の状態をしっかり把握、統一、情報の共有ができていたことで、ちょっとした変化にすぐ気付くことができて良かったと思います。

④ 他ユニットの職員がシフトで入る時には、情報の伝達や、ケア統一ができていなかった時もあり、利用者の方に不安な思いをさせてしまったことも少なからずあったと思います。

今後は、しっかりと情報を共有し、全職員で統一したケアができるよう心掛けていきたいと思っています。

これからも個々の生活を大切に、笑顔溢れる楽しい家、ご利用者も職員もここで良かったなと思えるようなケアを心掛け、悔いのないよう最期まで過ごして頂けるようにしていきたいと考えています。

1. 家目標と基本方針について

その人らしい生き方、今何をしたいのか、何をお手伝いして欲しいのかを考え、また、家族との交流を深め、「曲がりくねった道」でも同じ終点を目指すことを目標に一年間取り組んできました。

日中、ホールで過ごされる方と一緒に洗濯物を畳んだり、ティータイムでお話をしながらお茶を飲んだりと接する時間を大切にしてきました。また、居室で過ごされる方には、こまめに足を運び孤独を感じさせないように努めてきました。

高齢でも立位歩行の方が多いため、見守りや介助等で転倒のリスク予防に努めてきました。意思表示が少ない方に対しては、様子を見ながら、今何をしたいのか行動の意味を考え対応してきました。

2. 生活全般について

(1) 食事について

個々に合った食事形態を状況に合わせて提供することで、美味しく食べて頂けるよう努めてきました。

食前には、パタカラ体操を行い唾液促進してから食事を摂取してもらいました。

食事の姿勢も注意し、車椅子の高さに合わせ、食べやすいテーブルの高さに調整しました。

起床時間によって、食事の時間が異なる方にも生活パターンに合わせ、食事が取れるようにしてきました。

また、食欲がない方には、声掛けの工夫で食事を取って頂けるようにしてきました。

(2) 排泄について

排泄チェック表を活用することで、個々に合ったパットの選定や排泄交換ができた。また、自然排便が出来るよう食物繊維等で対応し、下剤に頼らない排泄に心掛けたが思うような結果が得られなかった。

尿カテーテルをされている方には、自己抜去されないための工夫や、本人の行動を、申し送りを徹底することで問題等は起きませんでした。

(3) 入浴について

入浴することで身体の保清が保たれ、また、皮膚の状態を観察し保湿クリームや痒み止めを塗布することで皮膚のトラブル予防ができました。

個浴では、ゆっくり音楽を聴きながら入浴を楽しんで頂きました。

機械浴利用者の移乗には、不安を感じさせないように、他ユニット職員の協力により、安全に実施することができました。

3. 家内の取り組みについて

我が家では、個々の生活スタイルに合わせた起床介助を行い、スッキリと目覚めてから食事摂取することに心掛けてきました。

生活のメリハリをつけるため、午前はレクへの参加で他の家の方との交流を図り、午後になると、帰宅願望等の症状がみられる方もおり、職員の連携で見守りや散歩をして頂くことで、気持ちが和らぎ、また、転倒等の防止に努めてきました。

ホームでは家族以上に接する時間が多く、ここで生活出来て良かったと思ってもらえるよう取り組んでいきたいと思えます。

1. 年間目標について

終末期においても施設生活が安心して送れるよう、多職種間との連携・協働体制を深め、必要とされる知識・技術についても共に学習し、最期まで寄り添い支えてきた。また、入居者のみならず、職員の健康管理にも留意し、定期健診は基より、個別の相談などにも対応してきたことから、概ねクリアできたと思われる。

2. 業務計画について

(1) 利用者及び職員の健康管理

<p>■ 健康管理について (入居者)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 健康診断1回目 令和元年7月27日 39名中37名受診(2名入院加療中)、内、有所見者31名 ➢ 健康診断2回目 令和2年2月8日 39名中37名受診(1名入院中、1名はターミナル期)、内、有所見者数33名 ➢ 要精密検査を指摘され、緊急を要するような検査結果は4ケースあった。後日データを基に医師の診察を受ける。 ➢ 入居者のインフルエンザ罹患者はゼロであった。面会制限は1月末から2月末日までとした。 ➢ 令和2年2月26日には、コロナウイルス感染予防対策として出勤時の手洗い等と西棟からの面会制限を掲げ励行している。
<p>■ 職員の体調管理について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 介護職員の平均年齢も高く、柔軟性と筋力の低下が目立ち、腰痛や神経痛など体調の不良を訴える職員が目立った。適宜、受診や休養などで調整できるよう配慮した。 ➢ 職員のインフルエンザ罹患者は1名であり、同居する家族に感染者がいても、これまでの知識を活かしたことで感染せずに済んだというケースが2例あった。 ➢ 腰痛対策については、予防法と介護技術の修得及び、福祉用具の購入(個人購入も含め)、腰部にかかる負担軽減に努めた。
<p>■ 健康診断について (職員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 今年度より全職員に対してストレスチェックを導入。結果については産業医であるいいたてクリニックのDr.管理となっている。個別の面談希望者は現在ゼロである。 ➢ 検診率100%(年2回) 施設外での健診を受けた職員については結果の写しを医務室管理とした。 ➢ 職員の数名については何らかの慢性疾患があり、内服薬の処方を受けている。他、それぞれ指摘された事項について相談と病院受診の必要性を説き、対応している。 ➢ 腰痛検査については、担当医不在という事態になり、自己申告による問診票をもとに、産業医でもある医師に上申、診断を仰ぐ形となった。 ➢ 体調不良にて入院加療を余儀なくされた職員が数人いたが、いずれも寛解し復職している。
<p>■ 健康教育について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 自身の体調管理については個別に相談を受けるなど、健康に関する関心を高めてもらえるよう努めた。 ➢ 感染症をはじめ、自身の健康管理にも役立つような内容を専門職として職員会議時に周知してきた。 ➢ 感染症委員会には固定した看護師が就き、6月には外部から講師を招き『手洗いの勉強会』を実施。2回に分けての実施であったため殆どの職員が参加できた。

<p>■ 受診について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 救急車搬送は2件（ともに脳血管疾患）、介護と看護間の連携と情報を共有することで、比較的速やかな対応ができた。（手遅れという状態は避けられた） ➤ 入居者の骨折という事故があった。高齢というだけでもリスクを伴っている。 ➤ 重症度の高いご利用者についても主治医の指示の下、家族への連絡を密にするなど信頼関係を築くことができた。 ➤ 診療については、いたてクリニックから毎週火曜日に回診と定時薬の処方を受けていた。慢性疾患のみならず、臨時薬や点滴の処方もあり、施設内で寛解できたことは何よりであった。
-----------------	---

(2) 褥瘡対策

<p>■ 皮膚トラブルの予防</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 早期発見の重要性を周知する。また、速やかな報告が重度化を防ぐことに繋がることも付け加え指示できた。 ➤ 皮膚トラブルがもたらす2次的疾患の特性については、各家会議に参加することで知識を広めることができた。排泄時の観察の重要性についても共にケアすることで指導できている。 ➤ 皮膚の状態を健やかにするため、ワセリン（プロベト軟膏）セラミド入り乳液である『キュレル』及び皮膚の状態に合わせベビーオイルまたはアズノール軟膏を個別購入し対応した。 ➤ ムートン・ロンボクッションをはじめとする体圧分散用具の導入をしてきたことで終末期に於いても褥瘡はゼロであった。 ➤ 栄養の大事さ、経口摂取がもたらす効果については適宜ケア会議などで話し合い、関心を深めていった。 ➤ 皮下出血しやすい薬を処方されているか否かについて周知し、皮膚に与える影響についても指示できた。個別の薬情については各家にファイルを設置することとした。 ➤ 看護師間で検討し、保護剤や被覆材の選択については互いの情報を共有するにとどまった。次年度は開催される勉強会などに積極的に取り組んでいきたい。
--------------------	--

3) 終末期ケア

<p>■ 看取りについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 「慣れ親しんだホームで最期を」と希望する入居者や家族が多く、7名の方が自分の居室で永眠され、病院に入院してから亡くなられた方は3名でした。 ➤ 悪性の疾患があり終末期を余儀なくされていても、100歳を迎える前に自宅への外出を可能にできたケースについては、本人だけでなく家族や職員にとってかけがえのない思い出となりました。 ➤ 最期は居室にソファベッドを配置するなどして、家族に泊まっていた。一人で逝かせたくないという職員の思いからでもあった。そして、できるだけ悔いが残らないように配慮することで信頼関係を継続できた。 ➤ 終末期を考慮し、事務・厨房・介護・看護のスタッフ全員で関わることができ、家族との信頼関係は一層良好なものになりました。 ➤ かかりつけ医である病院には、毎週火曜日の定期診療に加え、深夜早朝にもかかわらず対応していただき、最期の確認と家族への説明をして頂きました。 <p>〈付記〉</p> <p>好きなものが食べられること、最期ぐらい好きなお酒が飲めたこと、嫌がることをしないこと。笑う顔や、ちょっとした仕草を喜び合える仲間がいること。それらは、何物にも代え難いものであり、私たちは、もはや単なるお世話係ではないという自負さを持つことができるようになりました。</p>
------------------	--

【入院状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
大町病院	1	1	0	1	0	0	0	0	0	2	2	0	7人
あづま脳外	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	3人
鹿島厚生病院	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2人
延日数	20	10	0	10	0	0	28	11	13	15	15	0	122日

【通院状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
大町病院	2	0	1	1	1	0	0	1	0	1	1	1	9人
小野田病院	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1人
あづま脳神経	1	0	2	0	0	0	0	0	3	2	1	0	9人
川俣済生会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1人
くまがみ歯科	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2人
鹿島厚生病院	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2人
実日数 計	3	0	3	2	1	0	1	3	3	4	2	2	24人

【回診状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
受診者数	55	44	34	33	43	42	54	66	53	53	42	11	530人
看取り	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1	2	0	7人

1. 基本方針

「いつまでもおいしく食事をしたい思いに応える」

高齢化、重度化が進み口からあたりまえに食することが難しくなって来ている中で、食事で得られる視覚、嗅覚、味覚など、様々な感覚の刺激による活性化で“美味しく食べて笑顔で暮らして頂けるよう”に取り組んできました。

2. 実施内容

(1) 年間実施食数

食種	経口食	経管栄養	職員食	研修生	検食	家族食
年間食数	36,681	6,135	9,132	0	1,098	131
1ヶ月平均	3,057	511	761		92	家族会 夏祭り 芋煮会 賀寿祝
1日平均	100	17	25		3	
年間総食数	53,177 食					

(2) 年間食材費

食材費	特養
平均	1人1日 880円
食材費総額	15,406,045円

(2) 年間平均食事栄養量

栄養量	熱量	たんぱく質	脂質	塩分	炭水化物
特養	1,409kcal	58g	25g	6.9g	62.5g

(3) 栄養ケアマネジメント

対象者	対象者	実施期間	見直し期間
特養	入居者全員	通年	3ヶ月。但し、食事形態に変更があった場合は、その都度随時見直し対応
(令和2年3月末日)			
アセスメント結果 入居者 40名	低リスク (問題ない者) 21名	中リスク (やや瘦傾向・経管者) 19名	高リスク (褥瘡がある等) 対象者なし

3. 具体的な施策

(1) 食事サービス

① ケアマネジメントの充実

利用者の状態に応じた栄養管理を多職種協働で継続、充実を図って来ました。

② 口から食べる事を大切にする食事

- 利用者の意思や体調を考慮しながら同時に嗜好も反映させた食事を提供。また、食べ易さに配慮した食事の提供や、口腔機能維持に繋がられるような盛り付けの工夫など、メリハリをつけて食べる楽しみを味わって頂けるよう取り組んで来ました。

皆さんが好きな麺料理を提供したことがきっかけで、少食が改善されたり、退院時に経管栄養やペースト食だった方が、ソフト食を自分で食べられるようになったりと、満足感を味わって頂けるようになった事例もありました。

- 食べ易さに配慮した改善点

i) 主食見直し前 ごはん (各家で炊いたごはん)

→見直し後 軟飯 (厨房で炊いた利用者が食べ易い柔らかいごはんに変更)

ii) 主菜、副菜見直し前 (利用者と職員分を一緒に調理していたが、利用者の高齢化が進み、特に繊維質食材は軟らかくないと食べにくい)

→見直し後（利用者は、今までより柔らかく小さめに切って食べやすく調理、職員は、食材の食感を楽しめる硬さに調理して提供）

③ 行事食

月	行事	月	行事	月	行事
4	家族会総会	8	夏まつり、お盆	12	クリスマス会、餅つき、大晦日
5	母の日、柏餅作り	9	敬老会、秋彼岸	1	新年会、七草、小正月、非常食訓練、百歳賀寿祝い
6	父の日、百歳賀寿祝い	10	開所記念日 ラーメン屋出張料理	2	節分
7	七夕会出張料理、土用の丑	11	運動会&芋煮会	3	ひな祭り会出張料理 春彼岸、合同誕生会

- ・ 通常の行事については、経験を積んで流れ等も分かっていることから、忙しいながらも大きなミスもなく、時間通りに満足頂ける料理を提供出来たと思います。

その一方で、料理が同じ内容になりがちな面も見られたため、今後、内容を見直して行きたいと思います。

- ・ 大きな行事の「夏まつり」や「芋煮会」は、メニューや食数も多いため余分に準備するようになりがちですが、食材の適正量も考慮した工夫が必要になって来ます。

今年度の夏まつりは、家族に食券発行を行いました。売れる料理に集中するなど反省点もありました。今後、家族が参加される行事食については、アンケートを実施し、それをメニューに反映させる機会を設けるなど、親睦を深め喜ばれる行事食に取り組んで行きたいと思います。

- ・ 楽しみで期待感を持てるよう、目の前で調理するラーメンや寿司等の出張料理にも取り組み、美味しく食べて頂く様子に自分達もほっこり、遣り甲斐も感じられました。

④ 誕生会

- ・ 自分達なりに一生懸命考え、経験を活かしたケーキ作りを皆で取り組んで来たことで、個々の味が出せるようになりました。その成果もあって、昨年までは固定だった賀寿ケーキ担当者を今年度から輪番制に変更。担当者が利用者をイメージしたケーキでセレモニーを彩らせて頂きました。

- ・ 百歳賀寿を始め白寿や卒寿、米寿等の節目の誕生者も多く、いつもの誕生会とは違った特別感を出すため悩んだりプレッシャーもありましたが、SNS等をフル活用してデコレーションのアイディアを取り入れながら更にチャレンジして行きたいと思います。

(2) 安心・安全な食事

- ・ 衛生管理を徹底するため専門機関の各種検査を受け、また、感染症対策委員会と一緒に施設全体の衛生勉強会も実施、食中毒及び感染予防に努めました。

- ・ 災害非常時に備え食料等の備蓄とマニュアルを見直し。また、非常食訓練や備蓄品の期限の管理にも努めてきました。

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止に努め、緊張感を持って予防に徹底する。

(3) 各家とのかかわり

- ・ 家会議で円滑に話し合いを進めるためにも、利用者一人ひとりの食事内容を把握する大切さを実感しています。また、調理職員も家会議に出席しているからこそ、直営給食の強みが発揮でき、食事内容や配膳方法、ソフト食の調整など、すぐに対応可能となり、個々の体調に合わせた食事を提供出来たと思います。

- ・ おやつを届ける際、利用者の食事について聞く事もありましたが、余裕をもって聞くこ

とは時間の都合上難しかったりもしましたが、これからは、今以上にコミュニケーションをとって、業務向上に繋げられるよう心掛けて行きたいと思います。

3. 一年を振り返って

限られた時間内で、より効率的に生産性をあげるため忙しさも増した一年でしたが、下処理工程や調味の統一、調理を可視化する調理マニュアルの見直しや業務内容の見直しを皆で協力し合いながら取り組んで来ました。

結果、ソフト食や主食の細分化、軟飯、利用者と職員の調理を別々にしたりと、食事提供が出来たのではないかと思います。

ただ、時間的にタイトになったため、部署内でゆっくり検討し合う時間が取れなかった事があり、再度、厨房会議のあり方を見直して行きたいと思います。

また、利用者の高齢化、重度化に伴い、一人ひとりの状態に合わせた調理の工夫や提供方法が求められるため、「安全に美味しく食べてもらうためにはどうしたら良いのか」がテーマとなります。

百歳を迎えても、超えても、「おいしかったよ〜。」「昨日のごっそうはすごかった。いやぁうまかったなあ」と笑顔で応えて下さる皆さんの姿に、私達の方が元気を頂き、また、食べる事の大切さを教えて頂いています。

昨今、目に見えないウイルスに対する心配が尽きないご時世ですが、ホームの中はいつも通りの日常で笑顔に溢れていてホッとします。このような穏やかな生活の一面を食事提供者の立場からサポートし、細やかな日々の食事変更等にも、迅速に対応できるよう取り組んで行きたいと思います。

令和元年度 いいたて在宅介護支援センター
指定居宅介護支援事業所事業報告書

1. 基本方針について

介護保険の基本理念である「高齢者の自己決定権の尊厳」「自分らしい生活の継続」及び「自立支援」を基本とし、ご利用者やご家族の意向を踏まえ、自立支援に向けた居宅サービス計画を作成し、ご本人並びに家族は勿論の事、多種多様な事業者や関係機関と連携し、避難先等でも家族との繋がりが継続できるよう支援を行ってきた。

(1) 信頼関係の構築について

ケアプランを立案するにあたり、ご利用者とそのご家族の方との信頼関係を得るためにコミュニケーションを密に、避難先の環境やサービス事業者とも連携を図り、迅速な対応を行ってきた。

(2) 課題を正確に捉えるについて

生活環境の変化やご利用者・ご家族の方の抱える心配事や不安な点を捉えるため、予測される課題についても、事前に検討を行ってきた。

(3) 情報提供について

ご利用者・ご家族の方が必要としている、介護保険制度を含めた様々な情報の提供や、避難先で利用できるサービスなど地域資源活用等の情報提供を行ってきた。

(4) モニタリングを行うについて

常に状況を把握し、状態にあった支援が提供できるよう努めてきた。また、モニタリングについては、訪問以外にも電話などで相談や状況把握に努め、出来る限りの活動を行ってきた。

(5) ご利用者の立場に立つについて

常にご利用者とそのご家族の立場に立ち対応することに努めてきた。

『評価と課題』

訪問活動の他に、サービス提供事業者や関係機関等との連絡体制を徹底し、情報の共有を図り、身体状況の変化、生活環境及び家族の負担状況の把握を行い、より適切な対応ができるよう努めてきた。

今後、介護保険給付に対するサービスの利用量、サービスの種類等の適正化を図っていくことも必要となってくると思われる。

2. 具体的な施策について

《ケアマネジメントの充実》

(1) アセスメント（課題分析）について

ご利用者及びご家族の方の意向等を把握し、解決すべき課題や生活行為等に対する可能性を抽出し、それらに基づく目標を導き出してきた。また、得られた情報はケアマネジメントの中核とし、状態像を十分に把握してきた。

(2) サービス担当者会議（ケアカンファレンス）について

ご利用者及びご家族の方、サービス事業所が参加することにより、生活への要望や課題を確認することで、チーム全員がその思いを共有できると共に、ご利用される側に安心感を持

って頂けるようにしてきた。

(3) モニタリング（サービス実施状況の把握及び評価）について

モニタリングは、ご利用者に対する継続的なアセスメントでもあり、ご利用者や家族の要望や苦情を、口に出して言えるような関係を築いてきたと共に、サービスの実施状況も同時に確認してきた。

(4) 居宅サービス計画の見直し（再アセスメント）について

モニタリングの結果から、ケアプラン変更の必要性が生じた場合、内容を確認し、ご利用者の状態の変化及びニーズを把握しながら、居宅サービス計画を見直してきた。

(5) 給付管理について

サービス提供事業者からサービスの実績報告を受け、内容を確認し「給付管理票」を作成、翌月10日までに県の国民健康保険団体連合会に提出しています。

『評価と課題』

サービス提供事業所との連絡調整を密に行い、適正なサービス利用に向けた調整を行ってきました。しかし、地区によっては、慢性的な人員不足のサービス提供事業者があり、受入困難な所もあります。

今後、サービス利用量の適正化を図り、ご利用者や家族の要望を受け入れながら、インフォーマルなサービスも取り入れ、各種事業所との連絡調整を行っていききたいと思います。

3. 重点事業目標について

(1) 利用者及び家族に対し、居住区域の福祉サービス情報提供について

希望するサービスを把握し、居住する地域で対応可能なサービスを、介護保険サービス以外のインフォーマルサービス等を含め情報提供を行ってきた。

『評価と課題』

居住先地域ごとに、サービスの種類や量などの調査を行い、ご利用者や家族に適していると思われるサービスについて適宜情報提供を行ってきた。

情報収集の方法については、より効果的に図れるように関係機関と連携する必要がある。

(2) 毎月のモニタリング以外でも常時の状態把握について

サービス提供事業所や医療機関等との連絡調整による状況確認を行うことにより、本人の状態や家族の状況等の把握を行ってきた。

『評価と課題』

定期的な訪問活動の他にも、関係機関との連携を図り、ご利用者や家族への支援活動を展開できたが、今後は離れて暮らす家族との連携も必要と思われる。

(3) サービス利用事業所からの情報収集について

ご利用者及び家族の状況について、接する機会の多いサービス提供事業所からの情報を元に、状況に適した支援を行う事が出来た。

『評価と課題』

状況を早く把握できることで、状況に応じた支援活動が出来たことには、評価できるものと思っている。その時々だけではなく、常時情報の収集に努めたい。

(4) 医療機関との連携について

福島県が推進してきた医療機関との連携強化を図るため、入退院時の情報共有を相双圏域

と県北圏域の双方の入退院時調整ルールに基づき、其々の医療機関と利用者の情報について共有を図ってきた。

『評価と課題』

入退院時調整ルールについては、運用が始まったばかりということもあり、本格的な運用はこれからになるものと思われる。

(5) 課題等情報の共有及び相談業務の活性化について

相談支援業務だけに限らず、居住地域での生活情報や、サービス提供情報など、相互の持っている情報の共有を図ってきた。

『評価と課題』

複数の職員体制と云うこともあり、様々な問題に対して連絡や情報交換が取り易い環境となっている。今後も継続し、利用者支援に関する情報は勿論のこと、サービス提供機関や医療機関などに関する情報にも共有を図っていききたい。

(6) 要介護認定調査について

当村の委託を受け、認定更新を希望する方の要介護認定調査を実施してきた。

『評価と課題』

調査期間などを厳守するため、事前連絡調整を密に行い滞ることなく認定調査を行うことができた。一方、サービス利用目的ではない調査もあり、更新に至る時点での聞き取り調査なども必要ではないかと感じられる。

(7) 効率的かつ効果的な活動について

サービス利用希望者が、広範囲に居住することとなり、訪問のための移動時間が多くなっている。そのため、相談内容の事前把握や関係機関との調整を行い、相談や支援業務を効果的に行えるよう活動を行ってきた。

『評価と課題』

訪問活動のほか、関係機関との連携を図り、ご利用者や家族への支援活動を効果的且つ効率よく展開できたと思われる。今後も早期の問題把握に努め、より効率的及び効果的な活動に努めたい。

4. 介護支援専門員の資質・専門性の向上について

(1) 専門知識及び技術向上に努めてきた。

研修会に参加し、周知徹底に努めてきた。

- ・ 現任認定調査員研修（南相馬市） 2名参加
- ・ 飯館村地域包括支援センター主催の地域ケア会議への参加 年間6回
- ・ 主任介護支援専門員研修 1名受講

(2) 不満や苦情があれば、迅速かつ適切な対応が図れるように努めてきた。

訪問時、本人や家族の不安や不満等について確認し、サービス事業所への報告や改善を促しながら、質の向上に取り組んできた。

(3) 秘密保持厳守及び個人情報の取り扱いを適正に行ってきた。

個人情報等の取り扱いについて慎重に対応するよう取り組んできた。

(4) 困難事例ケース検討及び新規ケースの情報の共有することで、事業所内で依頼ケースのケアに取り組んできた。

担当者が詳細な情報を報告し、情報を共有出来るよう取り組んできた。

『評価と課題』

研修会に参加し、情報の収集を行ってきた。

困難事例ケースについては、地域包括支援センターやサービス提供事業所と連携を図り、同行訪問等を行いながら対応を行ってきた。中には、介護問題だけではなく、家庭内環境が困難であるケースもあった。

5. 在宅介護への支援について

(1) 介護保険制度及びサービス内容の周知を行ってきた。

サービス利用については、ご利用者のニーズに合わせ、其々の居住地で希望するサービスが提供できるよう取り組んできた。

(2) 介護方法及び社会資源の利用についての周知を行ってきた。

介護に関わるアドバイス、認知症利用者等への対応の仕方など行ってきました。

居住地での利用可能な社会資源についても説明を行ってきた。また、場合によっては、個人の携帯電話によるユーチューブなども活用し介護方法などのアドバイスを実施してきた。

『評価と課題』

居住地の行政機関と当村の連絡調整も必要となってくることから、関係機関との連携が益々必要となってくると考えられると共に、ご利用者やその家族の不安を少しでも解消できるような相談援助活動を継続していく必要がある。

6. 各関係機関との連携の強化

(1) 地域包括支援センターを始め、各関係機関との連携を密にし、ニーズに沿ったケアマネジメントが行えるよう取り組んできた。

他市町の関係機関と連携を取りながら、ケアマネジメントに反映出来るよう取り組んできた。

(2) 困難事例の検討と改善について

困難事例については、本人や家族は勿論の事、地域包括支援センターや各市町のサービス提供事業者とも連携を図り改善に向けて取り組んできた。

(3) 地域ケア会議への参加

地域ケア会議に出席し、各種機関が抱える困難な課題や解決方法などについて、意見の交換を行い情報の共有を行ってきた。

『評価と課題』

居住地の方部地域包括支援センター等、各種関係機関と連携し支援できたことについては、評価できるものと感じている。

利用者と家族等と生活環境等の変化に対しては、どのように対応できるか各関係機関との連携が重要となっている。

1. 基本方針

働き方改革に伴い、法的根拠に基づく規則や規程の改正、書類等の整備を行うと共に、新着情報を収集し現書類等の見直しと点検を行ってきた。

また、人材確保に係る補助金等を活用し人員整備に取り組んできた。

2. 具体的な内容

① 就業規則等の見直しと点検

- 働き方改革に伴い、各法に基づき、就業規則・臨時雇用職員管理規則・給与規則の一部改正を行う等、書類整備に努めてきた。

② 後方支援の役目を担う

- ①の規則改正に伴い、全職員に対し従来通り説明会を開き同意を得ると共に、個別にも対応する等、後方サポートも行ってきた。

③ 財源の維持確保

- 適切な予算収支の執行

収入については特定処遇改善加算を取得し、支出については無駄を省き適切な支出に心掛けてきた。

④ 人材確保

- 昨年に引き続き広報と呼掛けを実施。

求人登録や求人説明会は勿論のこと、専門学校訪問等を含め人材確保に努めてきた。また、福島県被災地介護施設再開等支援事業補助金を活用し、応援職員を約1年間受入。

3. その他

必要時に必要な内容を伝達できるよう、適宜の事務所内での勉強会を実施。

(働き方改革について、担当する各種マニュアルの点検等)

令和元年度 研修 一覧

研修期間	研修者氏名	所属	研修名	研修場所	備考	開催者	内容
4月9日～4月9日	三瓶 政美	特養	平成31年度までの里のこども園入園式	までの里	9:00～	飯館村	入園式
4月13日～4月13日	三瓶 政美	特養	平成31年度秀公会新入職員歓迎会	ウエティンクエムティ	18:30～	秀公会	新入生歓迎会
4月23日～4月23日	三瓶 政美	特養	平成31年度第1回福島県社会福祉協議会デイサービスセンター部会相双支那協議会	福壽園	10:00～	相双デイ	平成30年度事業報告について他
4月23日～4月23日	三瓶 政美	特養	平成31年度第2回相双地区特別養護老人ホーム連絡協議会総会	福壽園	11:00～	相双特連	平成30年度事業報告について他
4月24日～4月24日	三瓶 政美	特養	福島県老人福祉施設協議会第3回総会	ビッグレットふくしま	13:30～	福島県老人福祉施設協議会	平成30年度事業報告について他
5月8日～5月8日	渡辺 真理	特養	令和元年度社会福祉施設等職員初任者基礎研修	郡山ユラックス練馬	13:30～16:00	県社協	社会福祉施設等の職員としての心構え他
5月14日～5月14日	橋本 祥	特養	令和元年度認知症高齢者対応研修	郡山ユラックス練馬	10:20～16:00	県社協	高齢者の心理と行動他
5月16日～5月17日	三瓶 政美	特養	2019年度東北ブロック老人福祉施設大会	TKPガーデンシティ仙台	13:00～12:00	東北ブロック老人福祉施設協議会	2040年の高齢者福祉を目標して他
5月17日～5月17日	佐々木裕行	特養	平成31年度相馬地方防火安全協会飯館支部総会	飯館村交流センター	10:00～	相馬地方防火安全協会飯館支部	平成30年度事業報告について他
5月27日～5月29日	高野 拓巳	特養	2019年度ユニットケア研修(講義)	TKPガーデンシティ仙台	13:00～17:00	日本ユニットケア推進センター	ユニットリター-研修の目的他
5月30日～5月30日	三瓶 政美	特養	社会福祉法人等代表者会議	郡山ユラックス練馬	13:30～16:00	保健福祉部	平成30年度監査結果及び令和元年度監査方針等について
5月31日～5月31日	眞壁 成行	在介	令和元年度キャリアパス制度理解研修	郡山ユラックス練馬	10:00～16:30	県社協	今日から始めるキャリアパスを事例で学ぶ他
6月5日～8月23日	井上 祥行	特養	平成31年度福島県聴覚吸引等基本研修(不特定多数の者対象)	男女共生センター	9:00～18:00	県社協	介護職員と医療的ケア他
6月10日～6月10日	三瓶 政美	特養	相馬地方に介護福祉士養成学科をつくる会全体会議	相馬ホーム	13:30～	相馬地方に介護福祉士養成学科をつくる会	全体会にて解散式
6月10日～6月10日	佐藤智恵子	特養	令和元年度老人福祉施設職員研修I	郡山ユラックス練馬	10:20～16:00	県社協	介護職の専門性とは何か他
6月14日～6月14日	小川 秀行	特養	避難地域等介護復興計画に基づく会議	リリー館	10:00～11:30	保健福祉部	2019年度の県事業について他
6月17日～6月17日	木幡 佳代	特養	令和元年度介護保険事業者業団指導	サンライフ南相馬	13:15～16:05	県社協	令和元年度指定介護保険サービス事業者等指導方針他
6月18日～6月21日	高野 拓巳	特養	2019年度ユニットケア研修(実習)	みどりの郷	13:00～17:00	日本ユニットケア推進センター	ユニットリター-研修実習
6月21日～6月21日	佐々木裕行	特養	令和元年度社会福祉法人事務長等研修	郡山ユラックス練馬	10:30～15:00	県社協	社会福祉法人制度改革における法人運営の留意事項等について他
6月25日～6月25日	小川 秀行	特養	令和元年度相双地区特別養護老人ホーム連絡協議会臨時総会	福壽園	11:00～	相双特連	相双特連役員の改選について等
7月1日～7月1日	横山 啓子	特養	令和元年度新人向けOJT(プリセプター)先進事例研修	ビッグレットふくしま	13:30～16:15	県社協	人材教育におけるプリセプター導入の意義について他
7月3日～7月3日	小川 秀行	特養	令和元年度福島県社会福祉協議会社会福祉法人経営者協議会総会及びセミナー	ビッグレットふくしま	10:30～16:10	総務協	平成30年度事業報告及び収支決算について他
7月4日～7月5日	木幡 佳代	特養	令和元年度甲種防火管理者新規講習会	郡山ユラックス練馬	9:00～16:30	相馬地方防火安全協会	防火管理の意義他
7月5日～7月5日	坂本 洋一	特養	令和元年度災害リスク対策研修会	福島県男女共生センター	10:30～16:00	県老協	法人、そしてあなた自身を守る説明の仕方と記録の書き方
7月9日～9月25日	浦住すみい	在介	令和元年度主任介護支援専門員研修	ビッグレットふくしま	9:00～18:00	介護支援専門員協会	介護支援専門員の課題他
7月31日～7月31日	小川 秀行	特養	飯館村民生委員推薦会	飯館村役場	13:30～	飯館村	飯館村の介護保険の状況他
8月5日～8月5日	小川 秀行	特養	飯館村介護サービス検討委員会	いちばん館	13:30～	飯館村	介護老人ホーム入所判定1件
8月6日～8月6日	小川 秀行	特養	飯館村老人ホーム入所判定委員会	いちばん館	13:00～	飯館村	介護老人ホーム入所判定1件
8月6日～8月6日	嶋原やすえ	特養	飯館村老人ホーム入所判定委員会	いちばん館	13:00～	飯館村	介護老人ホーム入所判定1件
8月7日～12月11日	佐藤 祐子	特養	福島県聴覚吸引等研修基本研修	相馬ホーム	9:00～17:30	日本介護育成協会	介護職と医療的ケア他
8月7日～12月11日	佐藤 恵	特養	福島県聴覚吸引等研修基本研修	相馬ホーム	9:00～17:30	日本介護育成協会	介護職と医療的ケア他
8月22日～8月22日	菅野ゆかり	在介	平成31年度第3回地域ケア会議	村役場	13:30～	飯館村	個別ケースの検討について他
8月22日～8月22日	眞壁 成行	在介	平成31年度第3回地域ケア会議	村役場	13:30～	飯館村	個別ケースの検討について他

研修期間	研修者氏名	所属	研修名	研修場所	備考	開催者	内容
8月22日～8月22日	浦住すみい	在介	平成31年度第3回地域ケア会議	村役場	13:30～	飯館村	個別ケースの検討について他
8月23日～8月23日	嶋原やすえ	特養	2019年度社会福祉法人会計実務セミナー	TKPガーデンシティ山台	10:00～16:20	福祉医療機構	これからの社会福祉法人経営に求められる制度・財務的視点他
8月26日～8月26日	佐々木裕行	特養	令和元年度事務局長等研修	ビッグハットらくしま	10:00～16:00	県老協	介護職員等特定処遇改善加算を活かす事業経営他
8月29日～8月29日	小川 秀行	特養	令和元年度郡山健康科学専門学校就職説明会	ビッグハットらくしま	13:00～16:00	郡山健康科学専門学校	就職説明会（ブース形式）
9月3日～9月5日	小川 秀行	特養	2019年度ネットワークア管理者研修	ソラジヤイカンファレンスセンター	9:00～17:30	日本ネットワーク推進センター	ネットワークを取り巻く社会的背景と展望他
9月4日～9月4日	佐々木裕行	特養	令和元年度安全運転管理者等講習	福島県消防訓練センター	9:30～16:30	福島県公安委員会	安全運転講習
9月8日～9月8日	小川 秀行	特養	令和元年度飯館村敬老会	飯館中	10:30～	飯館村	飯館村敬老会
9月19日～9月19日	佐藤智恵子	特養	平成31年度高齢者権利擁護等推進事業看護実務者研修	県社協	9:20～16:00	福島県看護協会	介護保険制度と看護職員の役割他
9月20日～9月20日	木幡 佳代	特養	令和元年度苦情受付担当者研修	郡山ユラックス郡海	10:30～15:15	県社協	苦情から学ぶ福祉サービス向上とは他
9月20日～9月20日	菅野ゆかり	在介	令和元年度苦情受付担当者研修	郡山ユラックス郡海	10:30～15:15	県社協	苦情から学ぶ福祉サービス向上とは他
9月26日～9月27日	佐藤 祐子	特養	令和元年度福祉職員キャリアパス研修	県社協	9:15～16:45	県社協	チームリーダーとしてのキャリアデザインと自己管理他
9月27日～9月27日	小川 秀行	特養	2019年度TMC研修会	ウエディングエルティ	14:00～16:40	TMC	TMCの事業報告他
10月1日～10月3日	触沢 達怡	特養	令和元年度介護支援専門員研修2回以降更新研修会	ビッグハットらくしま	9:15～18:00	高齢福祉課	介護保険制度及び地域包括ケアシステムの今後の展開他
10月7日～10月7日	山田 義忠	特養	令和元年度社会福祉法人監事研修	郡山ユラックス郡海	12:50～16:00	県社協	社会福祉法人監事が担う実務の基本と監事監査のポイントについて他
10月28日～10月28日	佐藤智恵子	特養	令和元年度核対策特別促進事業研修会	かしま交流センター	18:30～20:30	相双保福	相双管内の結核の現状について他
10月29日～10月29日	佐々木裕行	特養	第2回飯館村介護サービス検討員会	いいたてホーム	13:30～	飯館村	今後における介護サービスの理想的かつ現実的な進むべき方向性について他
10月29日～10月29日	小林 明美	特養	第2回飯館村介護サービス検討員会	いいたてホーム	13:30～	飯館村	今後における介護サービスの理想的かつ現実的な進むべき方向性について他
10月30日～10月30日	佐藤智恵子	特養	平成31年度高齢者権利擁護等推進事業看護実務者研修	県社協	9:20～16:00	福島県看護協会	介護保険制度と看護職員の役割他
10月31日～10月31日	小川 秀行	特養	第73回福島県社会福祉大会（台風19号の影響にて中止）	須賀川アリーナ	12:00～15:40	県社協	福島県知事感謝状贈呈式他
10月31日～10月31日	小林 明美	特養	第73回福島県社会福祉大会（台風19号の影響にて中止）	須賀川アリーナ	12:00～15:40	県社協	福島県知事感謝状贈呈式他
10月31日～10月31日	木幡 佳代	特養	第73回福島県社会福祉大会（台風19号の影響にて中止）	須賀川アリーナ	12:00～15:40	県社協	福島県知事感謝状贈呈式他
10月31日～10月31日	豊田 芳江	特養	第73回福島県社会福祉大会（台風19号の影響にて中止）	須賀川アリーナ	12:00～15:40	県社協	福島県知事感謝状贈呈式他
10月31日～10月31日	菅野ゆかり	在介	令和元年度第4回地域ケア会議	ヒルソハウス	13:30～	飯館村	個別ケースの検討について
11月4日～11月5日	触沢 達怡	特養	令和元年度介護支援専門員研修2回以降更新研修会	ビッグハットらくしま	9:15～18:00	高齢福祉課	介護保険制度及び地域包括ケアシステムの今後の展開他
11月11日～12月12日	佐々木裕行	特養	令和元年度福島県介護支援専門員更新研修（実務未経験者）	ビッグハットらくしま	9:00～16:50	県社協	介護保険制度の理念・現状及びケアマネジメント他
11月11日～11月11日	小川 秀行	特養	令和元年度苦情解決責任者・第三者委員研修（10/23定員オーバーにて受講不可の連絡あり）	郡山ユラックス郡海	10:30～14:45	県社協	苦情制度の仕組み・第三者委員について他
11月11日～11月11日	山田 義忠	特養	令和元年度苦情解決責任者・第三者委員研修（10/23定員オーバーにて受講不可の連絡あり）	郡山ユラックス郡海	10:30～14:45	県社協	苦情制度の仕組み・第三者委員について他
11月11日～11月11日	佐藤 敏子	特養	令和元年度苦情解決責任者・第三者委員研修（10/23定員オーバーにて受講不可の連絡あり）	郡山ユラックス郡海	10:30～14:45	県社協	苦情制度の仕組み・第三者委員について他
11月13日～11月13日	小川 秀行	特養	飯館駐在所連絡協議会総会	まこり	10:30～	飯館駐在所連絡協議会	飯館村内の事件事故概要について
11月15日～11月15日	嶋原やすえ	特養	福島県介護職員等特定処遇改善加算説明会	郡山ユラックス郡海	14:00～16:00	高齢福祉課	2019年度介護報酬改定について他
11月19日～11月19日	小川 秀行	特養	2019年度福島県介護支援事業企業力セミナー	飯館村商工会	13:30～15:30	福島県雇用促進支援協議会	事例に学ぶ安全衛生と労災防止他
11月20日～11月20日	北里真由美	特養	令和元年度社会福祉施設栄養士研修	ビッグハットらくしま	10:30～16:00	県社協	健康診断結果から読み解く健康管理他
12月5日～12月5日	小川 秀行	特養	第3回飯館村介護サービス検討員会	いいたてホーム	13:30～	飯館村	飯館村における介護サービスの検討他
12月5日～12月5日	佐々木裕行	特養	第3回飯館村介護サービス検討員会	いいたてホーム	13:30～	飯館村	飯館村における介護サービスの検討他
12月11日～12月11日	菅野 若菜	特養	聴覚吸引等研修	相馬ホーム	9:30～17:30	日本介護教育協会	聴覚吸引等研修受講生の演習評価について

